

新聞・雑誌から見る現代日本

しんぶん ざっし み げん だい に ほん

◆ 第13回 ◆

私の夫がノーベル賞?

わたし* おっと しょう

*注)「わたし」という読み方は常用漢字表の音訓欄にはありませんが、「わたくし」と言うのはたいへん丁寧な場合に限りませんので、ここでは「わたし」としました。

このコーナーでは、新聞・雑誌の記事を通して現代日本事情を紹介するとともに、日本語を教える先生方が、新聞・雑誌の記事などの生教材をどうやって教材化し、中・上級の日本語の授業にどう活用できるかを提案していきます。今回は「ノーベル賞受賞者の田中耕一さん」に関する記事を中心に取上げますが、実際の教室活動の流れにそって質問と記事を提示しました。

「読む前に」と<キーワード>の部分は、いきなり記事を読むのではなく、記事に関する背景知識を整理して、読む準備をすることを目的にしています。「読む前に」の質問は、学習者が話題に関してどんな情報やイメージを持っているかを引き出したり、記事の内容を予測したりすることで、記事を読む意欲を高めることを狙っています。「読んだ後で」の質問は、学習者が記事を読んで自分の頭の中に作り上げたイメージを表現させたり、記事への反応を他の学習者と交換させることを目的にしています。

読む前に

ノーベル賞発足101年目の秋、日本では、同賞をめぐってのニュースが全国を駆けめぐりました。1949年に日本人として初めて湯川秀樹氏がノーベル物理学賞を受賞して以来、昨年まで10名の受賞者がいますが(右下の表参照)、今年、ノーベル物理学賞を小柴昌俊氏(東京大学名誉教授)が、ノーベル化学賞を田中耕一氏(島津製作所主任)が受賞し、初のダブル受賞をたたえる報道記事が多数でした。それらの見出しを見ると、今回のお二人の受賞は、「びりりで大学出た名誉教授」(小柴氏)、「偶然が生んだ大発見」「変人と呼ばれた主任さん」「好きなこと、役立つ研究続けたい」(田中氏)など、驚きや共感を持って伝えられているようです。特に田中氏は、受賞の記者会見に臨んだ際、「(事前に分かれれば)ちゃんとした背広で来るのですが、寝耳に水でしたので、作業服で申し訳ありません。」と語り、親近感あふれる人柄が注目をあびました。さて、その田中さんとはいったいどんな方なのでしょう。

<キーワード> ノーベル化学賞 日常生活
 サラリーマン 仕事 結婚

質問1: ノーベル賞についてどんなことを知っていますか。

質問2: ノーベル賞の受賞者というと、どんな人をイメージしますか。あなたがイメージする人を思い浮かべてください。

年	物理学賞	化学賞	生理学医学賞	平和賞	文学賞
2002	小柴昌俊(大学教授)	田中耕一(会社員)			
2001		野依良治(大学教授)			
2000		白川英樹(大学教授)			
1994					大江健三郎(作家)
1987			利根川進(大学教授)		
1981		福井謙一(大学教授)			
1974				佐藤栄作(元首相)	
1973	江崎玲於奈(大学教授)				
1968					川端康成(作家)
1965	朝永振一郎(大学教授)				
1949	湯川秀樹(大学教授)				

*経済学賞なし

朝日新聞（夕刊）2002年10月12日「私の夫がノーベル賞！？」
『日本語教育通信』2003年1月「新聞・雑誌から見る現代日本」
第13回に掲載している記事は、著作権の関係で掲載できません。

読んだ後で

よ あと

質問3：田中さんが送っている普通の生活というのはどんな生活ですか。記事を読んで、記事に掲載されている写真の中の（ ）に適当な内容を考えてください。

- ①：飲む量、②：訪れた観光地、③：印象

質問4：見出しに「本当に普通の生活」とありますが、それはどんな意味を表しているのでしょうか。

質問5：奥さんである裕子さんの発言に「私の名誉のために言うと…」 「…手抜きして…」という表現がありますが、この背景には日本人がモデルとする一般的な主婦像があると思われる。それはどんなイメージだと思いますか。

質問6：右の記事は、田中さんがノーベル化学賞を受賞した研究の内容です。田中さんが開発した生体高分子の分析技術によってどんなことが可能になりましたか。また将来はどんな方面で役立つと期待されていますか。

朝日新聞2002年10月10日

「化学賞の授賞理由(要旨)」

「日本語教育通信」2003年1月

「新聞・雑誌から見る現代日本」

第13回に掲載している記事は、著作権の関係で掲載ができません。

▲朝日新聞
2002年10月10日 朝刊

<解答例>

質問1：ノーベル財団が、世界の学術や平和などに貢献した人に授与する賞。ダイナマイトを発明したスウェーデン人、アルフレッド・ベルナルド・ノーベル氏が、自分の発明が社会の発展に役立ただけでなく、戦争の道具として使われることになったことを悲しみ、「基金を設立し、その利子を毎年、その前年に人類のためにもっとも貢献をした人に賞として与えるものとする。」と遺言を残し、その遺志をついで、ノーベル財団が設立された。物理学、化学、生理学・医学、文学、平和の5部門に加え、1969年からは経済学が新設され、現在では6部門になっている。授賞式は、ノーベルの命日12月10日ストックホルムで行われ、金メダルと賞状、賞金(740万スウェーデンクローネ=約1億2,000万円)の小切手を受け取る。

質問2：質問4の答えを見てください。

質問3：①：1日おきに缶ビール1本、②：東京タワー、浅草寺へ。箱根、熱海にも。楽しかった。③：第一印象は優しくな人。とても柔らかそうな感じ。

質問4：質問2ではどんなイメージを思い浮かべましたか。世界的な権威のある賞であるノーベル賞受賞者と言うと、それにふさわしい人というイメージがあります。確かに、日本の過去の受賞者という表にもあるように博士号を持った大学教授、首相経験者、著名な文学者で、そのイメージ通りの人ばかりです。つまり、その方々の生活は、庶民的な日本人の生活ぶりとは異なるという印象があります。そういう意味でこの田中さんの「本当に普通の生活」というのは、一般のサラリーマンの感覚に近いという意味を表しています。

質問5：「毎朝みそ汁のついた食事を作る」「みそ汁と買ったトンカツだけですませるような手抜きはしない」のが当然と考えるような主婦のイメージ。

質問6：たんぱく質などの質量を正確に測定することが可能になりました。新薬の開発や病気の早期診断、植物の品種改良などバイオ技術の発展に寄与しており、今後、体を健康に保つ多糖類や金属化合物などの物質の測定への応用が期待されています。

今回取り上げたテーマや練習案についてのご意見をお待ちしています。また、今回の記事を使って授業をしたときの様子や結果などを編集部までお寄せください。このコーナーの担当は木田真理、三原龍志(日本語国際センター専任講師)